

▶▶▶ 研究・展示プロジェクト

和歌の浦の景観および

和歌祭の保存と継承プロジェクト

▶ プロジェクトメンバー

○吉村 旭輝

▶ 共創相手

和歌山市

紀州東照宮

和歌祭保存会

和歌祭実行委員会

和歌祭四百年式年大祭実行委員会

南海電気鉄道株式会社和歌山支社

○はプロジェクト代表

プロジェクトの背景

紀州経済史文化史研究所（以下、紀州研）では、和歌の浦での歴史的・社会学的研究が盛んであり、1989年（平成元）の和歌の浦景観保全住民訴訟運動でもその研究が基盤となるなど、研究が蓄積され続けている。その研究は和歌の浦の紀州東照宮の例祭である和歌祭でも当時から故・米田頼司氏（幹事（当時））を中心に行なわれていた。この研究事業が基盤となり、2009年度に和歌山県教育委員会（紀伊山地の霊場と参詣道関連地域伝統文化伝承事業実行委員会）が主体となって行った文化庁ふるさと文化再興事業の成果で発見された御船歌音源、および当時和歌祭御船歌の調査に入っていた小西沙和氏（國學院大學院生（当時））の御船歌伝承者の紹介がきっかけとなり、県文化遺産課の蘇理剛志氏の呼び掛けにより御船歌の復元を目的とした御船歌部が結成された。そこには吉村旭輝（研究支援員（学芸員）（当時））も参画し、御船歌の復元作業を行っていた。2010年（平成22）、正式に和歌祭保存会および実行委員会から唐船での御船歌の復興依頼が紀州研にあり、和歌祭保存会唐船株、和歌山県民謡連合会の有志とともに唐船での御船歌復興を実現している。

紀州研では、2010年以前から教育学部で実施しているミュージアムボランティアの学生を受け入れている。御船歌の復興では当時、ミュージアムボランティアで御船歌参加者を2011年までの2年間、学生のなかから

募っていた。またこの活動が和歌祭実行委員会に注目され、同委員会から和歌祭全体への学生参加の要望があり、2012年以降は御船歌だけでなく、和歌祭全体への参加者募集に切り替えている。なお、2014年には紀州研の活動拡大にともない、学生ボランティアを全学に広げた紀州研ボランティアを立ちあげ、現在紀州研では教育学部ミュージアムボランティアと一体となって活動している。また、同年からは教養科目「民俗芸能論」（担当：吉村旭輝（紀州研運営委員／特任准教授））、「日本事情」（担当：長友文子（紀州研所員／国際連携部門教授））、教育学部科目「地域コミュニケーター論」（2016年度まで）（担当：海津一朗（紀州研運営委員／教育学部教授）・吉村）などの授業での和歌祭参加者募集も行ない、現在では200名を超える学生が和歌祭に参加している。この活動には「日本事情」の授業で多くの留学生も参加しており、留学生によって2017年には352年ぶりとなる和歌祭の唐人を復興させている。

こうした学生による和歌祭参加は、紀州研の同地での歴史的研究・教育活動が基盤となっている。紀州研では和歌祭および和歌の浦をテーマとした企画展・特別展を2010年から実施している。和歌の浦は2010年に名勝指定、また2017年に「絶景の宝庫 和歌の浦」として日本遺産に認定された地であり、古代よりさまざまな歴史的景観を有している地である。紀州研での展示活動は同地の歴史的史料を紹介するだけにとどま

らず、大学での研究成果を基盤としている。学生の和歌祭参加はこうした基盤に基づき、少子・高齢化等のさまざまな現代的諸問題を地域とともに考えるきっかけとなっている。

プロジェクトの目的

紀州研では2015年から研究プロジェクト制度を立ち上げている。この制度は、所員を代表者とし、学内外の研究者で立ち上げることのできる公募型のプロジェクトで、和歌の浦の景観および和歌祭の保存と継承プロジェクトは2015年から継続しているプロジェクトにあたる。同プロジェクトではプロジェクトの背景で述べた和歌祭参加や企画展・特別展の開催のほかに「森田庄兵衛の新和歌浦開発」（2015年度）等の和歌の浦の景観を中心とした公開研究会および公開シンポジウムを多々開催してきた。紀州研では和歌祭だけでなく、名勝および日本遺産といった文化遺産に指定／認定されている同地の景観の保存・継承をも含めた和歌の浦の総合プロジェクトとして実施している。なお、2020年度からは基幹のプロジェクトにもなり、地域住民とともに活動を展開している。

近年この活動は、和歌祭を中心（きっかけ）に展開をしている。現在、全国各地で祭り／祭礼が行なわれているが、これらのなかにはその存続の危機にさらされているものも少なくない。その原因は少子化や高齢化、また生業の変化や生活スタイルなどの変化など多

岐にわたる。その上で、無形民俗文化財としての祭り／祭礼の「保存」と「活用（観光化）」がさげばれ、祭り／祭礼に「価値付け」が為されて格差をうむ現状もある。

こうした問題の背景にあるのは祭り／祭礼を運営する中世や近世以来の座・講やそれを引き継いだ近代以降の自治会や若者組等が解体の危機にあることである。このことは祭り／祭礼の存続だけでなく、こうした団体が管理できなくなった地域の社寺では仏像等の盗難が相次いでいる。この現状をふまえ、紀州研では和歌祭を担う和歌祭保存会および実行委員会とともに学生と地域が一体なった祭り／祭礼の継承活動を学校機関が積極的に地域にかかわっていく全国的なモデルケースとしたい。

プロジェクトの活動内容

2022年に和歌祭は400年祭を迎える。この大祭を迎えるにあたって、2020年に和歌祭四百年式年大祭実行委員会が立ち上がり、戦後の昭和で行なわれていた和歌山城までの渡御のほか、これまでに失われた芸能の種目復興が予定されている。紀州研では2020年に企画展および学生参加の呼び掛けを予定していた。しかし緊急事態宣言のため、企画展は中止とした。また和歌祭の渡御行列も中止となり、神事のみで開催となったため、学生参加も中止とした。

そこで、2021年の和歌祭にむけて、2017年に留学生が復興させた唐人の装束は「和歌御祭礼図屏風」（1665年（寛文5）・海善寺蔵）および「和歌浦図屏風」（江戸時代前期・紀州研蔵）の図像をもとに装束考証を行なっているが、前者の屏風のうち、まだ装束1着が完成できていなかった。今年度の当プロジェクトではこの1着および剣や床几等の制作を行なった。

また、和歌祭四百年式年大祭実行委員会での失われた芸能の種目復興では、同会が主体となり、文化庁令和2年度文化資源活用事業費補助金（Living History（生きた歴史体感プログラム）促進事業）に申請し、その交付金で、以下のものを2021年から2022年にかけて復興・復元予定である。

- プログラム①「和歌祭で失われた渡物・練物の再現」
- ・復興予定種目（渡物）：黒棒（棒振り）（1人）、獅子（6人）、童子（9人） …2021年度復興予定
 - ・復興予定種目（練物）：茶釜（2人）、山伏（6人）、福祿寿（1人）、花籠（10人）、汐汲（10人） …2022年度復興予定



2010年に復興した唐船・御船歌（上）
2017年に復興した唐人（下）

○プログラム②「和歌祭御関船の再現」

・復元予定：御関船（3隻） …2022年度復元予定

○プログラム③「和歌祭昇山の再現」

・復元予定：昇山（1基） …2022年度復元予定

これらプログラムのうち、黒棒（棒振り）、獅子、童子は同会で和歌祭四百年祭歴史体感プログラム検討委員会を立ち上げ、紀州研からは吉村が委員長として装束再現に関わった。

また当プロジェクトでは積極的に学校機関でのワークショップおよび出前授業を開催し、さらに6月にオープンした和歌山市駅のキーノ和歌山で吉村が監修した「和歌祭 組み木人形展」を開催した。同地では南海電気株式会社和歌山支社および当基幹が主催となって、2020年11月からキーノ和歌山で和歌祭定期公演を実施している。詳細はつぎのプロジェクトの成果に記した。

プロジェクトの成果

【紀州研企画展「和歌祭一渡物と練物一」】

期間：2020年4月7日〔火〕～5月29日〔金〕

図録：無

協力：紀州東照宮、和歌祭保存会

…緊急事態宣言発出につき中止。

【紀州研企画展関連イベント：和歌祭見学会】

日時：5月17日〔日〕10：00～

会場：紀州東照宮境内紀州研ブース受付

…和歌祭渡御行列が中止となったためとりやめ。

【和歌祭 組み木人形展】

開催期間：2020年6月5日〔金〕～30日〔火〕

監修：吉村旭輝（紀州研幹事／特任准教授）

場所：キーノ和歌山3階共用部

主催：南海電気鉄道株式会社和歌山支社

【和歌祭芸能体験ワークショップ】

・和歌山市立和歌浦小学校

日時：2021年2月22日〔月〕13：50～15：25

内容：各種芸能披露～各種芸能体験

参加者：4年生（34名）

和歌祭参加種目：摺鉦・太鼓、雑賀踊、母衣、御船歌、薙刀振

【和歌祭出前授業】

・和歌山市立和歌浦小学校

日時：2020年12月10日〔木〕13：50～14：35

講師：吉村旭輝（紀州研幹事／特任准教授）

参加者：4年生（34名）

・和歌山市立貴志南小学校

日時：2021年3月10日〔水〕9：45～11：30

講師：吉村旭輝（紀州研運営委員／特任准教授）

参加者：4年生（54名）



和歌山市立和歌浦小学校で実施した和歌祭芸能体験ワークショップ（左）と出前授業（右）

【キーノ和歌山和歌祭定期公演】

開催期間：2020年11月～2022年5月（予定）

監修：吉村旭輝（紀州研運営委員／特任准教授）

場所：キーノ和歌山2階センターテラス

主催：南海電気鉄道株式会社和歌山支社、和歌山大学紀伊半島価値共創基幹

○第1回 摺鉦・太鼓、薙刀振

日時：2020年11月15日〔日〕

○第2回 御船歌

日時：2020年12月13日〔日〕

○第3回 餅つき踊り

日時：2021年1月10日〔日〕

○第4回 雑賀踊り

日時：2021年2月21日〔日〕



キーノ和歌山和歌祭定期公演（第1回2020.11.15）

○第5回 棒振り、獅子、童子

日時：2021年3月28日〔日〕

【市駅前広場リニューアル記念イベント『しえきのいま!』】

日時：2021年3月28日〔日〕

特別公演：和歌祭（母衣、棒振り、獅子、童子）

場所：南海和歌山市駅前広場

主催：一般社団法人市駅グリーングリーンプロジェクト

協力：和歌山大学紀伊半島価値共創基幹紀州経済史文化史研究所ほか

【和歌祭唐人装束制作】

・唐人装束（1着）

上衣／ズボン

・唐人所持品

剣（3振）／床几（8脚）

…いずれも当基幹プロジェクト予算で制作。2021年5月16日の和歌祭で披露予定。

【復興種目装束制作】

・黒棒（棒振り）（1着）

陣羽織／着物／裁付袴／頭巾／半襦袢

・獅子舞（2頭分）

獅子頭／獅子覆／上衣／裁付袴／半襦袢

・童子（9着）

水干／指貫／天冠／檜扇／太刀

…いずれも文化庁令和2年度文化資源活用事業費補助金で制作。2021年3月28日（日）キーノ和歌山和歌祭定期公演および和歌祭で披露予定。

